

建一さん「真実を明らかに」

'10/4/7

差し戻し控訴審の初公判を前に、亡くなった木下あいりちゃんの父建一さん(43)は「事件に至った経緯が分からないままに裁判が長期化している。真実を明らかにしてほしい」と心境を語った。

「あいりが生きていれば小学6年。そんなにたつのかと思う」。2006年に始まった裁判は間もなく4年になる。裁判は今回で4回目。「(一審で争点を絞る)公判前整理手続きを導入したにもかかわらず遠回りになった。裁判のたび事件を思い出し、つらい」。それでも遺影を抱き傍聴を続けるのは、トレス被告から真実を聞きたいという一心からだ。

08年の控訴審。被告は母国ペルーでの性犯罪歴に対する検察側の質問に黙秘を貫いた。「本当のことを知っているのは被告ただ一人。あいりや遺族に対し心から申し訳ないと思うなら、ペルーでの性犯罪歴についても語るべきだ」と訴える。

3月中旬、被告の直筆の謝罪文が弁護士を通じて届いた。「残忍な犯罪を二度と起こさないためにも、極刑を望む気持ちは変わらない」と言葉を強めた。